

令和7年産米概算金

J A全農山形は1万1500円増

J A庄内たがわ 26日決定

令和7年産米 農協概算金単価表
JA庄内たがわ8/26発表予定

品種	R7	R6	全農上げ幅
はえぬぎ		15,900円	11,500円
つや姫	8/26発表予定	18,900円	
雪若丸		16,500円	

J A全農山形は18日、令和7年産米の概算金を3銘柄それぞれ1万1500円の大幅引き上げを決めました。これまでは9月に入ってから決定でしたが、米不足を背景に、集荷業者がJ Aよりも高い価格を提示するなど、集荷競争が厳しくなっている背景があります。J A庄内たがわは、26日に理事会を開く予

定で、全農概算金から米販売手数料と検査手数料等を控除した生産者概算金を決定、発表するとしています。

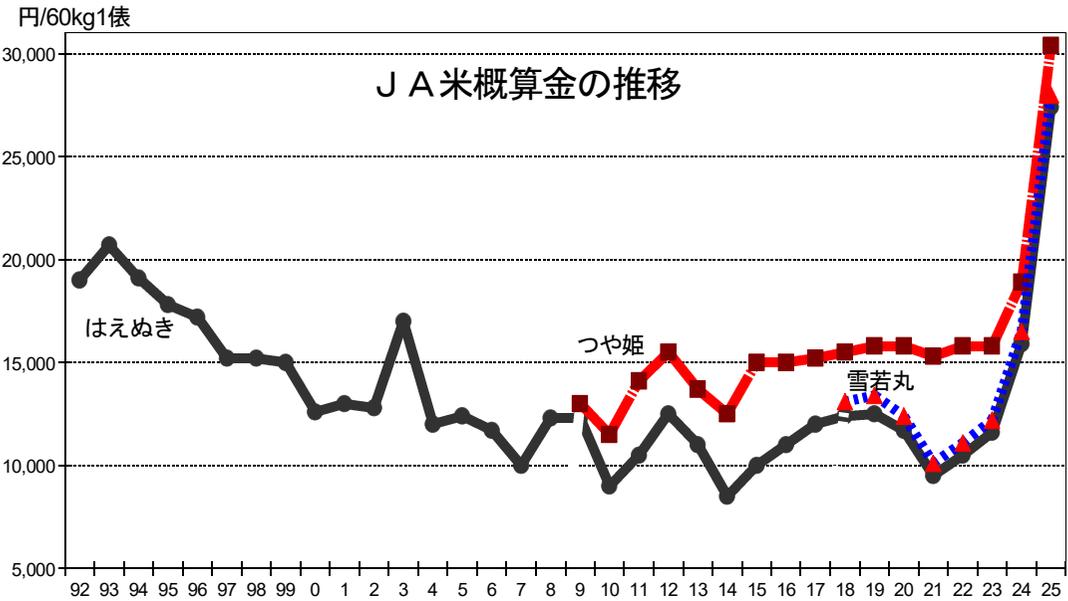
J A全農山形は「コメの安定供給に必要な量を確保するためだ。燃料費や肥料代など生産コストも上昇しており、農家が来年も営農できるように価格に設定した」と報道されています。

米の増産にかじを切る

石破首相は8月5日の「関係閣僚会議」で、米の生産量の不足を認め、①米の増産にかじを切る、②耕作放棄地の拡大を食い止める、③輸出の抜本的拡大に取り組みとしました。米生産が落ち込んだのは、政府が「米を減らせ」「市場にまかせろ」と迫り、低米価が長年続いたからです（上グラフ）。

その結果、2000年以降、米農家が175万戸から53万戸（24年）まで減り、生産基盤が弱体化しました。

自民党農政を抜本的に転換し、安定して生



ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

日向富編・歌集「のうぜんかずら」⑨

第8回例会詠草 昭和45年7月16日

幾日も吹く東風に気がいたむ砂飛び舞ひて窓も開けぬ 石川きくせ

なつかしき三十余年に逢ふ友と昔を語りクラス会楽し 同人

七十年の労苦を身に背負ひたる義父の死顔菩薩に似たり 石川重雄

鮎を釣り雉打ちたりし山川を望める丘に義父の墓建つ 同人

炬燵寝の孫の寝顔の安らかさは静かな元旦の午後 石川兵一郎

もろもろの万感胸に去来してテニスコートボールをば抜く 同人

初生りの杏熟れたるを待ちをるに台風二号に悉く落つ 太田辰吉

手術終へベッドに眠る弟の麻酔朝まで切れずにと念ず 同人

新農協の屋上に見る藤島の街の屋根屋根古びて小さし 海藤徳三

台風の潮の岬に黒潮は怒濤のしぶき空き店濡らす 同人

咲き分けのつつじ咲き初み吾子に言ふ義父行きたるは丁度今頃 小鷹和子

人の世は省略されし今時にも蜘蛛は繊細に巣をかけ渡す 同人

紫陽花の珠垂れ咲ける門口の遠くに人の声の聞こゆる 須田 稔

紫陽花に這ひよる小蜘蛛はうすみどり西陽あたる葉裏に急ぐ 同人

雑草の中盛り上り咲けるあぢさゐの涼しく冴ゆる梅雨なき夏に 日向良子

疲れ帰る我を迎へし猫二匹鋭き瞳に冬日を集む 同人

産できる施策が必要で す。

盛夏

盛夏（せいか）

城貞（藤の花）

盛夏見庭百日紅
家中裸祖熱如烘
二更催雨涼風起
願洗炎蒸聞草虫

盛夏 庭に見る百日紅
家中にて裸祖す熱 烘の如し
二更 雨 催して涼風 起る
願わくは炎蒸を洗い草虫を聞くを

最もあつい夏の盛りで、花の無い庭に唯一、サルスベリの花を見る。
家の中で上着を脱いで、はだかになる。
夜の十時頃になって、雨が降りそうなきざしになり、涼しい風が吹いてきた。
出来ることなら、蒸し暑さを払って、草叢に秋の虫の声を聴きたいものだ。



盛夏＝暑さの盛り。百日紅＝さるすべり。裸祖＝上着を脱いで裸になる。烘＝かがり火。二更＝夜の十時。願＝できることなら。炎蒸＝むし暑い。

アジア学院留学生の庄内研修 鶴岡市有機農業推進協議会 再開3年目

アジア学院（栃木県那須塩原市槻沢）留学生の庄内研修が、鶴岡市有機農業推進協議会（小野寺喜作会長）主催で今年も行われます。庄内研修は1995年に始まり、コロナ禍で2020年から3年間で2020年からは3年間休止していましたが、3年目。今回で28回目を数え、30年目となりました。

以前は、添川の農村環境改善センターに宿泊していましたが、ポイラーやエアコンが故障して使えず、宝徳の佐藤直樹さん宅（SEADS1期生）に宿泊します。今年も留学生27人で、置賜と庄内で半分に分かれ研修します。ここ庄内には、コンゴ共和国、インドネシア、ミャンマー、インド、フィリピン、ザンビア、リベリア、スリランカ、ベトナム、ケニアなどの出身者14人です。



第28回アジア学院留学生庄内研修

主催:鶴岡市有機農業推進協議会

日時	研修地
8月25日（月）	歓迎会（宝徳公民館）
8月26日（火）	藤島庁舎産業課エコタウン室 小野寺喜作さん（福田）
8月27日（水）	J A庄内たがわ 鶴岡市立農業経営者育成学校 SEADS
8月28日（木）	荘内教会保育園 庄内協同ファーム 研修まとめと国際交流の集い （宝徳公民館）
8月29日（金）	出発

大谷獅子舞、7年ぶりに復活



大川渡と谷地興屋の大地神社に伝わる「大谷獅子舞」が、今年7年ぶりに復活しました。14日には、宝泉寺境内を皮切りに、15日には大地神社で午前と午後、奉納されました。毎年奉納するものでもなく、若者の強烈な意思と結束がなければ長老から許可がおりないと伝えられています。



間違いを認める

統計の数値を出したら「責任者の首を切れ」と大きな号令が出たとのこと。自分の気に入らない人間が、数値を誤魔化したんだろうって事みたい。日本では人は、景気が良いからと消費税を上げたんだが、その数値はごまかして、自分が作った数値だった記憶なんだが、だったら、これってどっちも民主主義？

者の平均年齢は70歳を超えたでしょう。それでも米作って米が食えない・時給10円という姿にしたんだ。こんな状況でも米作りの我が県は、自民に議席を与えてきたんだが。

▲見積もりを間違えたと言っているが、生産を減らそう減らそうという思いだからなんだ。だからここ数年だって、生産を低く抑えて消費も少なく見積もったから、往復で間違ったんだ。外国旅行者が多いと喜んでいながらだ。

▲ここで「責任者の首を切れ」とはならないですか。ギリギリの装備と労力で頑張ってきたから、荒れ地はもどせるか。来年はタネを多く取れば良いが、面積はどの位延ばせるものやら。（石川）

▲米不足は政策の誤りだったから増産に切り替えるんだと。今更間違っていたと言われても、減反政策を始めたのは1971年（昭和46年）頃からだ。いつから間違ったんだか。50数年をかけて米を減らしたが、米作り農家も減らしてきたんだ。しかも、後継者が出てこない程痛めつけて。だからいま、耕作